

いろいろ 彩通信

2014年
8月8日
No.3



<イメージキャラクター>
いもずきんちゃん
▶スカートの裾はサクラソウ(埼玉県花)。暑いハート(太陽)を持っている、お芋の妖精です。(サツマイモは江戸時代から川越周辺で盛んに栽培されてきました)

【発 行】自治労第35回保育集会・埼玉県本部実行委員会
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-3-5 県労評会館2F 自治労埼玉県本部内 TEL.048-838-5531

「さよならばらの保育園(幼稚園)」を、作曲者の島筒英夫さんのピアノ伴奏で歌う埼玉の組合員。全国からの参加者と合唱(写真右下)。「大宮ソニックシティ」で7月11日



自治労第35回保育集会 埼玉で初開催 全国から1300人

全国保育集会には、自治労公営企業評議会の公認キャラクター「めぐるちゃん」も登場しました。今回が初のお目見えで、集会参加者にモテモテ。自治労水週間をアピールしました。



埼玉県羽生市など北埼玉地域の郷土料理「いがまんじゅう作り」

いがまんじゅう作り



「は、栗のイガのように赤飯で分厚く覆われた饅頭。参加者37人が5グループに分かれて、「作る・味わう」を体験した。写真上
保育所調理員も多数参加した会場では、「いがまんじゅう」が蒸し上がった瞬間、大きな歓声が上がりました。「おやつでも饅頭を出しているが、赤飯を包む発想が面白い」「子どもたちと一緒に作ってみたい」という感想も。同時に作ったモロヘイヤうどんも好評でした。

ワークシヨップ(7月13日)

集会3日目(7月13日)のワークシヨップは、埼玉県本部による企画。郷土料理の調理、運動あそびを楽しく体験しました。

「めぐるちゃん」 公企キャラも登場

この着ぐるみの中に入ったのは、川越市職の横溝光男さん(県本部副委員長・県本部公企評事務局長)。あなたも一度チャレンジしてみませんか。写真上は「さいたま共済会館」で7月13日



参加者83人がグループに分かれ、チームワーク良く運動あそびを体験しました。また、実践に活用できるダンス・マスゲームも多数紹介。楽しく体験できました。「日

運動あそび 日常保育から運動会へ

参加者83人がグループに分かれ、チームワーク良く運動あそびを体験しました。また、実践に活用できるダンス・マスゲームも多数紹介。楽しく体験できました。「日

「子どもの未来 彩る運動を」

総合司会で活躍

森川さん・渋谷さん



■全国保育集会の全体集会(7月11日)で総合司会として活躍したのは、渋谷香織さん(越谷市職・児童発達支援センター)と森川裕也さん(北本市職・栄保育所)のお二人の保育士さん。本当にお疲れ様でした。

埼玉で初めて開催された全国保育集会に、全国からご参加の皆さん、お疲れ様でした。その後、お元気で



集会初日の7月11日、全体集会が開かれた「大宮ソニックシティ」大ホールは、1300人の参加者で大賑わいでした。歓迎アトラクションの「秩父屋台囃子」、自治労本部の荒金廣明副委員長・埼玉県本部の持田明彦委員長のあいさつ、来賓からの祝辞に続き、「子どもたちの保育の質の向上」をテーマにリレートークが行われました。保育現場と保護者の立場から意見が寄せられ、「子ども子育て支援新制度」(2015年4月施行)を前に有意義な内容になりました。——それにしても、ピアノソングの島筒英夫さんのトーク・コンサートは良かったですね。あふれる優しさと勇気に、元気をもらいました。



■来年の第36回全国保育集会は山口県山口市で開かれます。日程は2015年7月24~26日。開催担当県となる山口県本部の副委員長の豊村雄二さんは「最大限の、心からのおもてなしをしたい。全国からご参加の皆さんを歓迎します」とあいさつしました。=さいたま市「大宮ソニックシティ」で7月11日

来年は山口で 会いましょう



頃の仕事の疲れを忘れて楽しめた」という声が多くありました。写真左上
運動あそび
すべての子どもを運動好きに

参加者92人。スクール形式で講師のユーモアのあるお話とスクリーンで身体の動きを学習。
「片足をケガした熊」という設定で四つ這いで進む例から、腕・肩・足の筋力がつき、そして足を広げて進むことで跳び箱を飛ぶ力が付くことなど、ステップを踏むことで身体に力が付いていくことを学びました。

集会の2・3日目に開かれた13分科会と5ステップアップ講座では、「子ども・子育て支援新制度」が来年度施行される中で、自治体が積極的な役割を果たしていくためには何が必要か、職場の課題を出し合いながら活発に議論しました。

分科会(7月12・13日)



「保育制度改革」の分科会。来年、本格実施される「子ども・子育て支援新制度」をめぐる、自治体と国の役割、そして自治体の具体的な取り組みについて学習を深めた=「JA共済埼玉ビル」で7月12日



「乳児の食育について、保育士が紙芝居・絵本・歌などを通して上手に食育を行っていることを知りました。職種は違っても子どもを想う気持ちは一緒です」。食物アレルギーについても議論。参加者126人。

「学童期に携わる指導員への現場支援」現場ですぐ生かせる講演が好評。具体的な困難ケースごとに、子ども・保護者・指導員の信頼関係づくりのための実践的なアドバイスを受けました。参加者45人。

「保育の質の向上～保育労働者(正規・非正規)の処遇改善と組織化」全国の事例を紹介し、非正規職員の組織化や処遇改善のための活動ノウハウや情報を交換。「非正規の組織化は、保育の質の向上のために必要」であることを参加者で確認しました。参加者49人。

「保育制度改革」新制度を中心に学習。行政報告(厚労省)に続き、自治労本部が基調提起。質問・意見も多数ありました。参加者から



記念Tシャツ 完売に感謝

「埼玉県本部デザインの記念Tシャツがほぼ完売!ありがとうございました」。写真は販売担当の加須市職の皆さん。左から、委員長の相澤睦さん・近藤静香さん・眞中俊典さん=全体集会の会場の「大宮ソニックシティ」で7月11日

は「保育士だけではなく、事務方の苦勞や自治労の取り組みを知り、この問題を広い視野で考えることができるようになった」。参加者271人。

「自治労の保育運動」自治労の保育3原則について説明を受け、公立保育所の重要性について学習。反響が大きかったのは、藤沢市の特別報告「公立保育所の将来像獲得をかけた取り組み」でした。

この他、民営化を進める当局に対する組合のあり方(県本部との連携)、施設の建て替え予算の確保などで質問も。参加者183人。

「放課後児童クラブ・児童館」新制度に対する自治労の取り組み」国は放課後児童

「新制度」が始まる 子育て支援の充実と 質の高い保育の実現を



参加者62人。

「保育現業」自園調理9割を占める保育所給食にも、コスト削減を目的に外部委託が増加。対抗策として「食育の推進」「自分たちの仕事を地域にアピールする」という意見も出され、イベント「市役所お仕事展」や市民むけのシンポジウムの開催など、取り組みの報告がありました。

ステップアップ講座(7月13日)

保護者対応・メンタル対策 など職場の実践例から学ぶ

17件のレポート報告に対して質疑応答。参加者からは「保育所・幼稚園・小学校の連携はとれている所が多いが、学童保育にはまったく情報が伝わっていない」という報告もありました。参加者22人。

「メンタルヘルス」講座

「社会的養護」貧困や孤独などで、社会的養護を必要としている子ども。児童虐待に繋がるケースもある。

「貧困に対する一歩の砦」とされる保育所の役割を議論しました。「家庭支援専門員(保育士)は必要です」という意見や、「児童福祉の現場にもっと財源を配分して」という声も。参加者19人。

「幼児期と学童期の接続」



「メンタルヘルス」の講座。参加者の表情も明るくなりました。大宮ソニックシティビルで7月13日

全国からの参加者 に駅頭で会場案内

「じゃあ、今日も暑〜ね」。気温36度の猛暑の中、大宮・浦和・与野本町の各駅周辺

で、参加者を会場に誘導しました。担当したのは、現業評や公営競技の埼競労など。写真は、県庁前に立つ公共民間労組協の橋本武朋さん(小菅委託二オン)。

「子育てを支えつなぐ地域の連携」参加者56人。現在の受け皿不足(人員も保育所などの施設も)や各機関が問題を抱え込んで情報共有ができていない問題を急ぎ解消していくべきという意見がありました。

「災害・防災」東日本大震災から3年。災害時に子どもをどう守るか。避難経路の見直し、防災頭巾・ビーチサンダルの完備(すぐ履いてすぐ逃げる)など、数多くの実践例が報告されました。参加者78人。

「人権を大切に、ともに育つ保育」否定せず肯定する。ありのままを受け止める「子どもへの行動には必ず意味がある。それを読み取る」など。人権尊重の意味、接し方を学びました。参加者69人。

「障害児保育、気になる子への支援」子どもへの「困った感」に寄り添うことで、支援の手立てが見えてくる。発達支援ポイントをまとめた講師の説明が分かりやすく好評。参加者238人。

「幼稚園」新制度の中で、幼保連携型こども園の認可基準が国から示されている幼稚園。参加者からは、「新制度」に関する職場学習会を開催している報告があり

